

# 応化会だより

昭和52年7月 第22号

早稲田応用化学会

# 40年前の応用化学科

猿井喜一郎

今年が丁度応用化学科が創設されて60年になる。即ち1917年（大正6年）に創設されたのはご存知の通りであります。

私が早稲田に来た頃（昭和11年）の応用化学科の建物は狭く、粗末なバラック建てでありましたが当時の財界人森村市左衛門翁の寄付によって4階建ての旧応用化学科が建設されたことは衆知のこととあります。このことは昭和12年に竣工した旧応用化学科入口のアーチの処に約60×1,600 cmの大理石があり、ここに「室驗実科学化用応・念記会明豊」と記されていることは昭和42年頃迄の卒業生はご存知のことと思います。

この応用化学科の表札は早稲田大学のどこを見ても単一学科として、この様な大きなものは見当りません。又森村豊明会は全く同時期に日本女子大学に寄付し、出来た小学校が有名な日本女子大附属豊明小学校であります。

従って早稲田大学応用化学科と女子大豊明小学校は兄妹であるといえるわけです。このことは早稲田大学関係者も又、日本女子大学関係者も余り古い話してご存知ない方が多いようです。

また昭和15年頃と記憶していますが、当時の王子製紙K. K 社長を退いていた藤原銀次郎翁（藤原工業大学創設者・現慶応大学工学部）より5万円の寄付を戴いたこともありました。

応用化学科に対しての寄付で最大のものは小倉房蔵翁によるものが最も多く、当時（昭和17年）の金額で100万円の寄付を仰ぎそして、出来たのがご存知の燃料化学科で、昭和29年に旧応用化学科に併設された小倉記念館がそれとあります。

さて、今から40年前の昭和12年は小林久平先生から小栗捨藏先生に主任がバトンタッチされた年でその頃の応用化学科には、3 Fに小栗捨藏先生（永田氏）、富井六造先生（窪田氏）、武富昇先生（小山氏）、武井宗男先生、石川平七先生、2 Fに小林久平先生（畑中氏）、山口栄一先生、山本研一先生（高安氏）、村井資長先生（幸田氏昭和18年）山内真佐雄先生、1 Fに宇野昌平先生（関根氏昭和15年）、秋山桂一先生（相葉氏）の諸先生方が研究室をお持ちになっておられて、各先生方は1名以上の（ ）内の個人助手を擁して活発な研究活動をされていました。亦、4 F図書室に兼坂常氏（早大文学部卒、昭和15年退職）並に志村繁男氏、1 Fの薬局に岸田勝彦氏（東京薬専卒、薬剤師昭和24年退職）、小笠原長憲氏（昭和14年退職）吉村可守氏（東京薬専卒、薬剤師、馬場下、吉村薬局主人）、原熊三郎氏（現在第4課長）、1年生実験担当職員に小杉喜久雄氏、2年生担当が私、3年生担当風間亭造氏等の職員が配属されて居りました。図書の兼坂氏は図書の借出、返却が非常に厳しく、小栗先生の研究室に行き返却期が10日も過ぎていのに未だ返却しないのはどうしたことか等、嚴重な抗議をしていたこともしばしば

で「カタブツ」そのものであったことを記憶しています。

兼坂氏は早稲田に来る前に中国の女学校の校長をしていた経験者でよく中国の風土、風習の話しをしていました。図書室に反して1Fの薬局（薬品室，器具倉庫，応接室が併設されていた）の方は先生，職員，学生，個人助手の人達の談論風発のタマリ場で，先輩の卒業生等もお土産持参で学校に現れ，世間話に花をさかせて居りました。

また，時たま教職員と，高学年の学生及び個人助手の人達も含めて，ボート，野球，テニス等を土曜日には楽しんだ思い出もあり，又，之等の人達と良くアマダをやり村井先生，武井先生の発案によりあらかじめ，山内先生や山口先生に当てておいて志村氏にお使い役を依頼して，餅菓子や萬頭をほ、ばったものです。このような環境に育成された学生は一般に大らかであり，一例をあげると卒論実験の折，羽織，袴で料亭から登校していたような「ツワモノ」がいていざ卒業して就職（当時は卒業前に全員の就職が決定していた）の段になり，学校側としては就職先は世話しない条件を付されて卒業した人が居り，この人は自分で就職先を探して，後に一流化学会社の部長となり，現在は晴耕雨読の楽しい日々を送っているとのことである。

又，学生実験は，厳格で例の物理化学実験の際ベックマン温度計を破損して（当時は高価な器具を破損した時は学生から始末書を提出させた）髪を刈って小栗先生に謝罪した人もいました。

この40年間を顧ると，主任の先生は小林先生，小栗先生，武富先生，山本先生，宇野先生，石川先生，吉田先生，大坪先生，篠原先生，森田先生，城塚先生，加藤先生を経て現在宇佐美先生と変遷して参りました。その間幾多の事がありましたが，バラック建てから旧応用化学科建物に移転し，更に昭和42年，西大久保キャンパスに移転して現在に至って居ります。

昔の学生数は1, 2, 3年生全員で約80~90名であり，現在の学生数の約600名に比較すれば大変な相違があり多数教育に対する是非論も当然乍ら発生し，各研究室・実験室の狭いこと等は将来考えられるべきであろう。

（理工学部第5課（化学系）課長）

## 太陽エネルギーの利用

小川 晃 男

1972年は世界的な異常気象で，不作，不漁の地域が多く，世界の食糧，飼料の需給は大きくゆり動かされました。相ついで起った石油ショックは私達の生活に大きな打撃と不安をもたらしました。これをきっかけに今日食糧問題とエネルギー問題についての憂

論がさかんになってきておりますが、私達化学者もこれらの問題を真剣に考え、取りくんでゆく必要があると思います。これら2つの問題の解決はいずれも太陽エネルギー利用効率の向上にあると考えられます。現在私達の食糧、有機合成原料およびエネルギーの大部分は植物(高等植物および藻類)や光合成細菌による太陽光エネルギーの化学エネルギーへの変換、すなわち光合成に依存しています。農業はもちろんのことですが、水産業、畜産業についても光合成による有機生産物の利用であり、エネルギー源、合成原料としての石油、石炭、天然ガスなどの化石資源についても数億年にわたる光合成生産物の蓄積にはかなりません。

食糧問題については、私達はこれまで食糧の増産によって人口の増加をかろうじて支えてきましたが、これは肥料と農薬に負う所が大きいと思います。肥料、農薬の生産には多量のエネルギーを消費しており、したがって食糧問題はエネルギー問題と切り離して考えることは出来ません。今後の食糧の増産についても肥料、農薬は重要な役割をはたすでしょう。しかしこれらの大量投与は公害を引きおこすでしょうし、エネルギー消費の面から考えても問題があります。そこで考えられるのが植物の太陽光エネルギー利用効率を上げることです。光合成中の炭素の流れに操作を加えることによる二酸化炭素同化の増加、暗呼吸、光呼吸の無駄な過程の制御、農産物としての収穫量を増すように植物体内における炭素配分を変化させる<sup>1</sup>ホルモンの制御によって 全季節を通じて光合成能力を利用できるように適応させる等の方法が現在考えられており、生物学的窒素固定の研究の進展によっては窒素源に関する問題も解決するでしょう。しかしこれらはいずれも光合成や窒素固定の過程の生物学的・化学的理解を得るための基礎的研究の上に成り立つものであることは言うまでもありません。また植物の生育に欠かすことのできない磷資源が遠くまで枯渇するでしょうが、これは自然界の循環を効率よくすることで解決するわけで、それには現在の廃棄物・汚水処理方式を改めてそれらの植物への還元を行う必要があると思います。

エネルギー問題における太陽エネルギーの利用については、太陽電池や Solar House など工学方面からのアプローチがなされており、Solar House のような太陽光の熱エネルギー利用に関しては近い将来にかなり一般的に利用されるようになると考えられます。生物による太陽エネルギーの化学エネルギーへの変換をエネルギー獲得の手段として利用しようという考えが最近いくつか出されており、アメリカではそれに関するシンポジウムも開かれました。自然界における年間を通しての植物による太陽エネルギー変換の効率は0.1~0.3%で、短期間の理想的条件下では10%ぐらいまで上げる可能性が見込まれています。したがって変換効率を上げて利用するか、または従来無駄にしていた生体化学エネルギーを有効に利用するという考えが生れてくるわけです。太陽光エネルギーの有効利用に対する今後のあり方の1つとして、生物によって太陽光エネルギーにより水から水素を作ろうという考えがありますが、これは光合成における水

の分解によって生じる水素イオンを水素ガスとして取り出そうとするもので試験管中では一応成功しています。また廃棄物中で藻類、光合成細菌を培養し、それらを醗酵させてメタンガスを得る方法や、アメリカのノーベル賞学者であるカルビン教授らが研究を続けているある種の炭化水素を生産する植物の栽培と利用等があります。

食糧・エネルギー問題における太陽エネルギーの利用に関しては、未知の困難さが多く含まれています。あるものについては近い将来経済的に充分成り立ちうるようになるでしょうが、その多くのものについては10年、20年の息の長い研究によって成果が得られるものと思われます。したがって、これらの問題に関してはかなり長期的視野のもとに研究を進めてゆく必要があるでしょう。

(昭和37年卒 理化学研究所)

## ビール工場見学

桜井 範彦

工場見学は、普段、便覧等で図でしか見ることの出来ない生産工程を具体的に見ることが出来る利点がある。今回、応用生物化学工業の一環として行った朝日麦酒大森工場見学は、発酵学の工業での役わりを知る良い機会であった。6月の曇りの午後、宇佐美先生に引卒され、学部、院生計60名は、朝日麦酒大森工場へとむかった。大森工場は、約10数年前に建てられたものでまだ新しい感じがした。外観も非常に近代的で麦酒工場とは思えなかった。入館後、まず3階へ行き、短篇映画で工程の概要が説明された。映画でビール製造工程の副産物である酵母や炭酸ガスが、ビタミン剤やサイダーに使用されていると知らされて驚いた。企業は、発酵を大変効率よく利用しているのだ。次に見学者コースを廻って各過程の説明を受けた。階段が、やたらと多いためか、全体としての工程の流れをすぐつかむのは難しかった。タンクも室内に有るため大きさをなかなか感じられないようであった。しかし、各工程で非常に気が配られていることは判った。特に空調調節のきめの細かさには感心した。大森という東京の大工場地帯の空気も気候も麦酒にとって十分でない場所でも、名産地と殆んど変わらないものが作れるのである。この事の後ろには企業の様々な努力が存在しているのであろう。工程の最後は、びん詰めである。圧力計をビールびんの口に入れて炭酸ガスの圧を計っていた。炭酸ガスもビールの品質の要素の1つなのである。何百何千と並んだビールびんを見ていると、味やコクとかいったたしなみの世界とは異なる産業という世界にビールもおかれているのだと感じられた。仕込みや発酵の部分では、それほど意識しなかったのであるが。工場見学の最後は、試飲会であった。学生の中にはこれだけを楽しみにきている者もいるようであった。

試飲会では市販品しか味わえなかった。工程途上の麦汁等少量でもよいから味わいたいと思われた。工場で味わうビールもおもしろいものである。2時間という限られた時間で全てを知ることは出来なかったけれども、発酵の応用を知るには十分であったと思われる。同時に将来の職場というものを垣間見たような気がした。4時、十分試飲を終えた学生達は工場を後にした。

(修士2年)

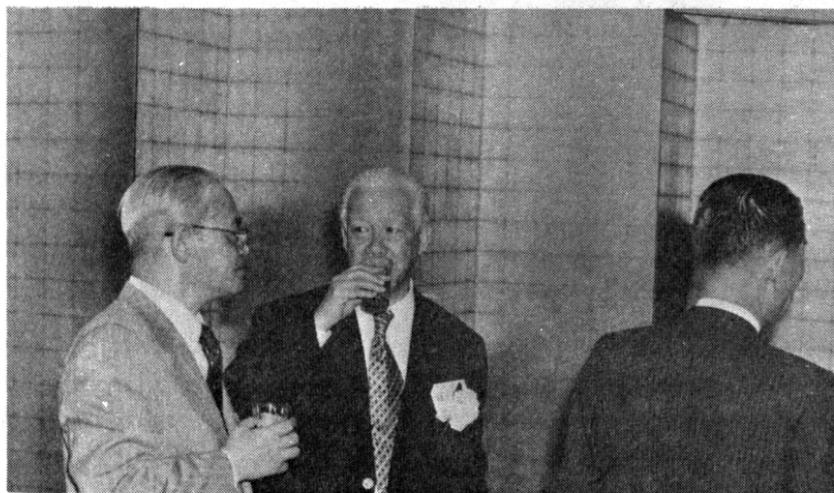
## 総会スナップ

昭和52年度総会は4月1日午後6時より、東洋ホテルで開かれました。大阪での開催はじめてであり、日本化学会の年会とも重なったためか、115名の会員で賑わい、大変盛会でありました。



総会に先き立ちサントリー（株）会社社長 佐治敬三氏の講演が5時から行なわれました。氏は「私の経営観」と題して会社の歴史に触れられ、創業当時「赤玉ポートワイン」がよく売れたこと、又、戦後進駐軍への売込みが「オールド」の宣伝に大変効果のあったこと、安くてうまいトリスの大ヒット等、又社名のサントリーは俗に言われているように「鳥井さん」を逆にしたのではなく「赤玉」即ち太陽に感謝して「サン」と名付けたものであると真説(?)を述べられ、最後に「健全なる赤字部門」をモットーとして、経営に心掛けおるとして約1時間の講演を終えられた。講演後、繊維会社の或る卒業生が「我が社は不健全なる赤字部門ばかりだ」と溜息をもらしていましたが、サントリーという会社が進取の精神で成長してきたという印象を強く受けました。

続いて総会に移り、鎮目会長の挨拶、会務報告、事業報告等があり、この中で会長は会費の納入状況が40%で会の運営が非常に苦しいことを訴へ、会員諸氏の尚一層の御協力を強く要望されました。



懇親会は午後6時30分、大坪先生の乾杯の音頭で始まりました。学会に参加した院生、学部生が多数(約20名)顔を見せ、例年と違い、大変若やいだ雰囲気、美しいホステスのサービスと相まって歓談に興じ、時のたつのも忘れしました。最後に肩をくみ校歌を斉唱して8時30分散会しました。



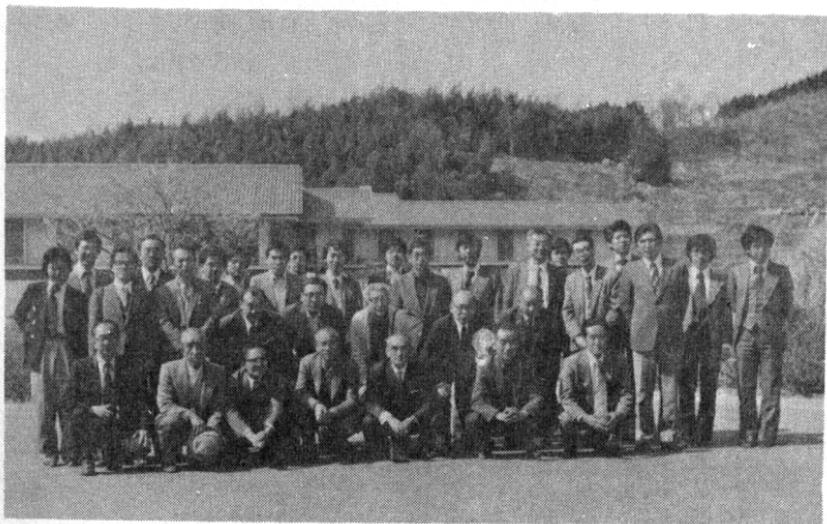
翌々日4月3日、古都見学会のバス（32名）は8時30分東洋ホテルを出発しました。幸い好天に恵まれ、宝生寺、飛鳥史料館、石舞台古墳、飛鳥展望台、藤原宮跡発掘現場と回り、この間大阪有機（株）のおはからいでおいで載いた松本修自氏（奈良国立文化財研究所 昭和52年早大建築科修士卒）の詳しいお話しに、古代人の生活を偲び、古都見学を十分堪能した1日でありました。

尚總會等に出席された方々は下記の通りです（敬称略）。

上若藤吉久篠川穴太田森越清鈴小望田山三小土	田山木田我原保山田中田智水木野月中本輪島田	武一克勇光隆義民常晴裕惟明慎健英	敏彦茂忠巳功雄夫二良郎雄一男郎男守夫治正俊	木水前内鎮山久保小阿中吉河加松吉川小覺瀧近岩	村科島海目田保野津村山本藤久田手林野根藤田	清一元申碩達元稜兼敏正敏忠昌茂昭淳正昌	郎安孝夫雄四郎亮隆二夫義尚藏一治平宏介道浩倬	江崎孝一	由良川野原田見野饗島川橋田宮鬼藤見川手田	由荒芦竹植岡名和野饗島川橋田宮鬼藤見川手田	孝泰昌廉忠正龍直讓隆信昭陽孝憲	一夫文泉吉衛一雄茂義二一章綏夫清剛次一之助	大川堀桑平大好高多真福山西金菅東木小大門馬	坪田米原池友本橋田城島脇谷井野邑林森田場	義恒耕幸成恒太昌長守健勘創謙康博隆雅一正哲	雄夫平郎一夫郎典定哲重郎平介郎樹保通成彦男
-----------------------	-----------------------	------------------	-----------------------	------------------------	-----------------------	---------------------	------------------------	------	----------------------	-----------------------	-----------------	-----------------------	-----------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------



松田	田	毅	菊	地	英	一	萬		肇	岸	本	孝	夫
池田	田	規久雄	岩	田	靖	久	見	並	佳	中	島	正	臣
田	中	航次隆男貢	一	色	健二	郎	宮	原	樹	平	田	靖	之
井	野	明	高	久	浩一	郎	大	橋	郎	幸	前	篤	郎
渡	辺		桑	山	通	郎	桜	井	彦	深	瀬	敬	聰
湯	本		伊	藤	直	之	西	国	龍	山	口		義



永井博彦 松原正巳 角田良昭 木村孝良  
久保田宏明 池田浩 村上明男 正住弘

## ◎ 会務報告

### ○ 昭和51年度事業報告

1. 役員会, 総会 昭和51年5月13日(木) 大隈会館  
講演, 「クリーニングの今昔」佐藤一男氏(白洋舎工場部長)  
(出席者名84名)
2. 運営委員会 昭和51年9月24日(金) 大隈会館  
昭和51年2月16日(水) 大隈会館
3. 特別講義
  - (1) 昭和51年9月29日(水)  
「化学工業の中の化粧品」小林礼次郎氏(小林コーサー(株)取締役)
  - (2) 昭和51年10月27日(水)  
「フォトファブ리케이션とエレクトロニクス」古関敬三氏  
(大日本印刷(株))常務取締役)
  - (3) 昭和51年11月24日(水)  
「高压化学プロセスの開発」小久保良氏(日産化学(株)中央研究所次長)

### 4. 学生会活動

- (1) ソフトボール大会 昭和51年6月18日(金)  
都営上井草総合運動場(参加者300名)
- (2) ソフトボール大会 昭和51年11月4日(木)  
三井浜田山総合グラウンド(参加者160名)
- (3) 応化展(理工展) 昭和51年11月5日(金)~7日(日)  
内容 “夢の時代”から“可能性の時代”へ
  1. 人造人間はつくれるか
  2. 化学資源を有効に利用しよう
- (4) 研究室紹介 昭和51年12月8日(水)
- (5) 応化会だより発行 昭和51年7月, 12月(2回)
- (6) 会員名簿作成

### ○ 昭和52年度事業計画

- (1) 応用化学科創設60周年記念式典 昭和52年11月11日(金)  
日本工業倶楽部

- (2) 総会等 昭和52年4月1日, 3日  
(総会スナップ参照)
- (3) 「応化会だより」 2回 52年7月, 12月  
60周年記念特集号(12月)
- (4) 学生会活動  
ソフトボール大会他
- (5) 運営委員会 昭和52年9月, 2月
- (6) 特別講義(予定)

## ◎叙 勲 勲二等瑞宝章

神 原 周 氏(財)化学品検査協会理事長

## ◎学位授与

工学博士

川 手 昭 平(関西大学工学部助教授)

「コウジ酸発酵に関する研究」

高 安 正 躬(社団法人 燃料協会)

「乾式法による酸化窒素の接触除去に関する研究」

西 川 洋(大学院理工学研究科 応用化学専攻)

「高分子金属錯体の生成反応とその触媒素反応過程」

理学博士

篠 崎 開(大学院理工学研究科 応用化学専攻)

「金属-炭素 $\sigma$ 結合の反応性に関する研究(リチウム及コバルト化合物)」

## ○庶務より

昭和52年発行の名簿が漸く完成いたしました。発行に際し、会員諸氏の御協力を得ましたことを感謝いたします。特に会社別世話人の方々には再度にわたり大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

編集にあたり、出来るだけ注意いたしましたが、諸々に手違いを生じ記載事項に誤りが出ましたことをお詫び申し上げます。別紙に正誤及変更表を掲載いたしますので、何卒よろしく御了承下さい。

又、「変更」の欄は原稿締切後に御連絡を頂きました方々です(6/15現在)

◎ 今後も変更のありました場合は必ず下記宛御連絡下さいませお願いいたします。

㊦ 東京都新宿区西大久保4-170

早稲田大学理工学部

早稲田応用化学会

発送につきましては、アンケートにて申しあげました通り、御申込み頂きました方の内、最近2年間の会費納入されて居られます方には、すでに発送いたしましたので、御受取り頂けたものと存じますが、御申し込みがありましても会費未納の方には発送いたしませんのでこの“だより”に封入されました振替にて早速御振込み下さいませお願いいたします。入金通知あり次第に御送り申しあげます。

なお御申し込みのない方で御入用の方は、最近2年間の会費を御納入の上、名簿代1,000円を添え、お申し込み下さい。

## ○ 会 合

### ○ 群 青 会 (旧制第5回)

久振りに1泊の予定にて6月13日三島駅に集合、当日出席会員は渡辺薫、佐野龍二郎、程原亨、鳥居敬文、坂田誠の5名。

昼食は渡辺氏のご配慮で登喜和で好味の酒肴を糸の音を互に楽しみつ、すませ特殊製紙(株)を見学、渡辺氏の努力によって紙に関する各種研究室を配置し立派なる研究所であった。私達も年齢的に若かったら入所させて貰いたい。研究所内の正面にこの功に報ゆる為に渡辺氏の胸像が設置されていた。工場内も温度湿度の調整から空気の濾過設備、日光の遮蔽等必要に応じて完備して居る。公害関係に就いても意を用い廃水の浄化設備も完備しヘドロを完全に除去し工業用水として必要に応じて回収し並に場外に排水しヘドロは乾燥の上集荷場に移送されて居た。お茶の代りに地下水を賞味し案内役の取締役工場長江藤氏にお礼を述べて4時辞去

新緑の箱根路を快適のドライブ1時間30分芦の湖畔で小憩し熱海の静かな山荘で出湯を浴びて夜の更けるのを知らで種々談合、企業経営者から国際政治家さては宇宙を手がける国際外交官と話につきず。翌日は双柿舎を訪ね坪内逍遙先生の遺業を見聞す。偶然日本の木琴の大家平岡先生ご夫妻に此処で面会するも亦奇縁。両日共に晴天に恵まれたのは平素我等精進の賜か。又の出会いを願って解散す。以上。

(当番 坂 田 誠)

### ○ つばさ会 (昭和16年卒)

2月12日(土)熱海の大柿舎で久しぶりに1泊の会合を催した。東京よりだいぶ暖かく五分咲の梅園あるいは海岸を散策した。集った会員は7名で、川端郁太郎、木村宗成、砂原章秀、竹内孝、前島庄司、岩崎馨であった。

今回は都内で同伴の会合の予定。(岩崎記)

○ 第12回卒業生クラス会

卒業以来、1度もかゝしたことのないクラス会を今年は2月5日(土)原宿の「南国酒家」で行った。常連の池内、平川等に加へ久しぶりに増山、王も顔を見せ、歓談に興じた。最近は、不景気な話題も多い上、子供の教育問題等、多難な年令にきていることを実感した。次回は1泊の予定(岸本記)

出席者は以下の通り。

池内、平川、西崎、深津、池田、児島、佐藤、小倉(茂)、小倉(義)、小川、竹田、前島、増山、米田、高桑、岸本、

昭和51年度会計報告

収 支 決 算 表

( 自 昭和51年4月1日 )  
( 至 昭和52年3月15日 )

収 入			支 出		
費 目	金 額	予 算	費 目	金 額	予 算
前期繰越金	105,527	105,527	会 報 費	1,098,823	1,000,000
正 会 員 会 費	1,950,000	}1,500,000	名 簿 費	250,685	2,000,000
有志 会 員 会 費	16,500		集 会 費	213,850	150,000
学 生 会 員 会 費	427,750		380,000	学 生 部 会 費	159,580
広 告 料 金	910,000	0	集 金 費	116,505	80,000
諸 利 息	220,433	100,000	支 部 費	50,000	50,000
寄 付 金	930,000	0	用 品 費	42,676	30,000
雑 収 入	233,100	300,000	事 務 費	344,000	350,000
名簿積立金取崩	0	1,600,000	雑 費	15,650	20,000
			基金へ繰入	500,000	0
			次期繰越金	2,001,541	(予) 115,527
	4,793,310	3,985,527		4,793,310	3,985,527

寄付金：大阪有機化学工業(株) 殿 ￥500,000

日本化学機械製造(株) 殿 ￥200,000

水野敏行殿(旧2) ￥100,000

伊藤 孝殿(旧17) ￥30,000

進藤喜信殿(旧17) ￥30,000

平 会殿(旧20) ￥30,000

百目鬼清殿(新1) ￥30,000

竹原廉吉殿(旧16) ￥10,000

## 貸 借 対 照 表

(昭和52年3月15日)

借 方		貸 方	
費 目	金 額	費 目	金 額
現 金	15,153	前納会費積立金	1,083,450
郵便振替	228,807	名簿刊行積立金	2,150,000
郵便貯金	125,234	基 金	1,890,000
普通預金	2,805,797	次期繰越金	2,001,541
定期預金	3,950,000		
	7,124,991		7,124,991

## 小林奨学基金利息収支決算表

(自 昭和51年4月1日  
至 昭和52年3月15日)

収 入		支 出	
費 目	金 額	費 目	金 額
前期繰越金	466,061	教員研究費	410,000
貸付信託収益金	358,185	次期繰越金	422,556
普通預金利息	8,310		
	832,556		832,556

基金(貸付信託)総額477万円(小林基金354万円,水野氏123万円)

使用済利息367.5万円

## 昭和 52 年度 予 算 案

収 入		支 出	
費 目	金 額	費 目	金 額
前期繰越金	2,001,541	会報費	1,100,000
正有志会員会費	1,800,000	名簿費	2,400,000
学生会員会費	400,000	特別事業費*	1,000,000
諸利息	100,000	集会費	100,000
広告料金	1,150,000	学生会費	200,000
雑収入	50,000	集金費	50,000
		支部費	50,000
		用品費	30,000
		事務費	370,000
		雑費	20,000
		予備費	181,541
	5,501,541		5,501,541

\* 関西における役員会・総会・見学会・応用化学科創設60周年記念会

### 編集後期

- 本年度の総会は若い人の出席者も多く、大変な賑わいで、3年に1回学会が大阪でありますから、その時は当総会も大阪で開いたらどうでしょうか。
- 最近は工場見学というものが全くなくなってしまいましたが、久しぶりに去年ビール工場へ学生さんたちが行きました。その時の模様を書いて戴きましたが、紙面の都合で、今回になってしまったことをお詫び致します。
- 来る11月11日（金）応用化学科創設60周年式典が行なわれますが、次回の「だより」はその特集号としたいと思います。（岸本記）

昭和52年 7月 発行

発行

早稲田応用化学会  
新宿区西大久保4 早大理工学部内

編集兼  
発行人

佐藤 匡 岸本 孝夫

印刷

鑿堀越研究所  
千代田区神田神保町2-20